

## -生涯学習- 平成26年度生涯学習関係職員実践講座(実践編)の報告

佐賀県立生涯学習センターでは、生涯学習・社会教育関係職員に必要な知識や実践力を身につける「生涯学習関係職員実践講座」( [基礎編.pdf\(3771KB; PDFファイル\)](#)・実践編・ [課題編.pdf\(8500KB; PDFファイル\)](#))を行っています。

9月3日(水)、10月1日(水)の2日間、『防災』と『ミーティングファシリテーション』をテーマに実践編の講座を開催しました。

1日目 9月3日(水)

### 『公民館発！地域防災へのアプローチを学ぶ』

(1) みんなが参加したくなる『共考』の防災教育・活動を考える



【講師】

小林 祐司さん

(大分大学工学部准教授・博士(工学))

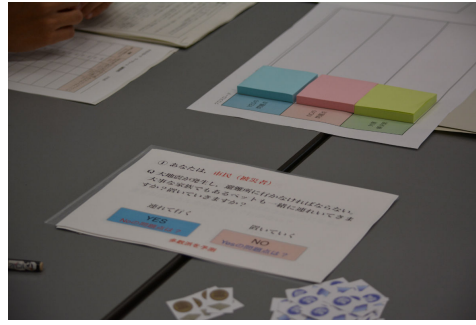
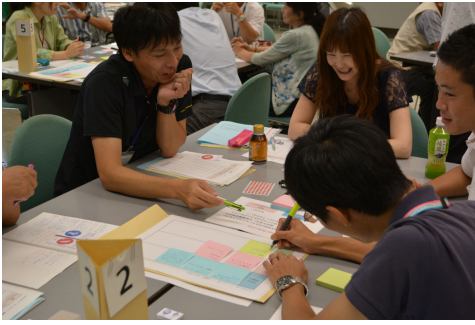


大分県内の小学校や地域における防災教育や活動支援にも数多く取組まれている講師の小林先生は、みんなが参加したくなることが防災教育のポイントと語られました。さらに、みんなで一緒に考え、学ぶべきところは深く学ぶ共考のスタイルが必要と述べられ、それぞれの地域に立脚した対策、訓練方法の必要性を呼びかけられました。

また、いつ起こるかわからない災害だからこそ、日ごろから地域ぐるみでリスク共有を行っておくことが大切であり、そうした取組みは、自然災害に対する危機管理を知らない子どもを中心に行ってほしいと語られました。その際、地域に潜む危険性や怖さだけを子ども達に伝え続けるのではなく、地域の良いところも伝えてあげる情報発信も大切にして欲しいとアドバイスされました。

地域の中でお互いを知る機会を創り、地域のコミュニケーションを育んでいく取組みも、地域防災につながることを再認識しました。

## (2) 知識と体験を深める防災教育・活動のプログラムとは ～自ら考え、行動できる人づくりに向けて



後半はクイズやゲームを用いて防災を学びました。防災YES、NOクイズは誰でも気軽に参加できるクイズでした。しかし、単なる答え合わせだけではなく、正解しても「それはある条件の時だから」という補足説明をすることが大事なことで、それが防災教育であることを学びました。

さらに、カードゲームで災害対応を学習する「クロスロード」ゲームを体験しました。これは、阪神大震災の際、神戸市職員が実際に迫られた難しい判断状況をもとに作成されたものです。机上での体験でしたが、ジレンマを伴う災害対応は少数派の声にも耳を傾けることや異なる考えを知ることが大切など、深く考えさせられる内容でした。

その他、災害時の避難所運営では女性や子ども、高齢者、病人など、災害弱者への目線を必ず入れること、衛生問題と健康問題は表裏一体であることなど、配慮することも学びました。

「防災への特効薬はありません。試行錯誤しながらでも継続した取り組みで地域防災の日常化を図り、多様な意見を取り入れるコミュニティづくりを目指してください」と呼びかけられた講師の言葉が印象に残りました。

### 受講者の声（講座アンケートより抜粋）

- グループワークで想定していない回答があった。自分には無い意見を聴けて勉強になった。
- 高齢者や病人、女性など、弱者のことを考えた防災対策を考えないといけないことに気づかされた。
- クロスロードは臨場感があり、被災者の立場になって考えられたのがよかった。
- 子どもを中心に家庭、地域へと防災意識を高めていく大切さを改めて感じた。

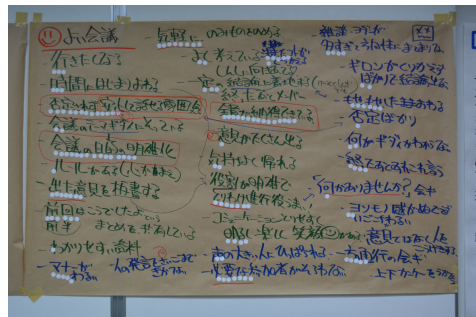
2日目 10月1日(水)

## 『ミーティング・ファシリテーションを学ぶ』

### (1) ヒトつなぎ・マチかわる『話し合い』の創り方 ～どこが違う？ いい話し合い・そうでない話し合い



【講師】  
青木 将幸さん（ミーティング・ファシリテーター）



「市民の会議術ミーティング・ファシリテーション入門」著者の青木さんを講師に迎え、話し合いの創り方とコツについて学びました。

話し合いの場で一人ひとりの意見を引き出すポイントは「まずは少数で」「自己紹介の中にちょっとした雑談を交える」「個人で考えてからグループの意見交換に移る」ということ。早速3人のグループに分かれて体験しました。

その手順で話し合いを進めてみると、自然と緊張がほぐれ、それぞれ自分の意見がしっかり発言できる雰囲気に包まれていました。

次に、全体で意見を共有する場面では、グループの全員が合意(うなずける、そうだ!)できたものを発表し、発言は板書する。話し合いの内容を明確にするためには板書の色分けが効果的など、多くのアドバイスをいただきました。

また、声の大きい人や誰かの意見にひっぱられないための合意形成の作り方や、進行役は中立な立場で接すること、いろいろな人へ発言を促す声かけ、意見に共感する言葉かけなども随時取り入れることなど、よりよい話し合いの場にするための手法を、青木さんのファシリテートから学びました。

## (2)なるほど！みんなを巻き込む『話し合い』のコツ ～チカラを引き出す・違いを超える



後半は、会議の実践実習に取組みました。

はじめに、6、7人で行う会議レイアウトを複数出し合い、実際に机やイスをセットし、それぞれのレイアウトの雰囲気を確かめました。すると、レイアウト次第で、「身近な感じ」「圧迫感がある」「上下関係を感じる」「距離感がある」など、雰囲気に違いがあることがわかりました。立ち会議にチャレンジしたグループからは、「短時間でも意見やアイデアがよく出た」「ファシリテーターが意見の出ない人の横に移動して促すことができた」などの感想もあり、「レイアウトひとつで会議は変わる」ことを実感しました。



公民館など地域のあらゆる会議がもっと豊かに、新しいものをみんなで生み出す力になれば、地域もさらに変わるのではないのでしょうか。

参加いただいたみなさん、講座で学んだことをそれぞれの場所で活かしていきましょう！

## 受講者の声 (講座アンケートより抜粋)

- 会議目的、参加者にあった会議のやり方があることを学ぶことができ、少しずつ実践していきたいと思った。
- 地域の力を引き出すことに会議の力はとても大切だと思う。スキルをもっと身につけていきたい。
- 会議はファシリテーション次第で変わる。意欲がわいてきた。
- 会議の中で自分が意見を出しづらい雰囲気があるのはなぜなのかわかった。より良い会議をするための工夫をしていきたい。



## アバンセ

佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター

〒840-0815

佐賀県佐賀市天神三丁目2-11(どんどんの森内)

TEL:0952-26-0011 FAX:0952-25-5591

【指定管理者】[公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団](#)

Copyright (C) 2011 Avance All rights reserved

[アクセス・交通機関のご案内](#) ▶

[お問い合わせ/ご意見・ご要望](#) ▶

### 開館時間

火曜～土曜日:8時30分～22時00分

日曜・祝日:8時30分～17時00分

(ホールは22時00分まで)

### 休館日

毎週月曜日(祝日も含む)

12月29日から翌年1月3日まで